

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200286		
法人名	有限会社ケアサービス平和		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	群馬県高崎市飯塚町1301-1		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成23年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多方面からの様々な助言をいただきながら、質の高いサービスを提供し、利用者の笑顔・家族の笑顔・職員の笑顔のあふれるグループホームを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“笑顔のあふれるホーム”を目指し、管理者と職員はやさしい言葉かけや対応をしながら、利用者の言動の中から思いや意向の把握に努めている。利用者の行きたい場所への外出支援に力を入れ、本人が戸外で気持ちよく過ごせるような工夫をしている。家族との連携を大切に考え、外出行事の際には一緒に参加してもらったり、ホームからのお便り「平和新聞」や運営推進会議の会議録を送付している。地域の保育園児、小・中学生、ボランティアの人々とも交流を図りながら、利用者が伸び伸びと過ごしているように見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある『私達はあなたの笑顔がみたいです』という言葉のように、一度でも多くの笑顔の見られるような支援を心掛けている。	地域密着型サービスの意義を職員間で確認し、独自の理念を掲げている。管理者と職員は会議等でケアの方向性を確認しながら、「利用者の思いを大切にして、笑顔が見られるような支援」を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園・小学校・中学校の園児や生徒達に来て頂き、交流をはかったり、ボランティアの方々にも毎月来所して頂いている。又、納涼祭では、ご近所の方々や子供達にも遊びに来て頂き、一緒に盆踊りや金魚すくいなどして交流している。	自治会に加入している。保育園児が来訪し、ハンドベルの演奏等をしている。小・中学校の体験学習、傾聴や慰問ボランティアの受け入れを行っている。中学校の運動会に参加したり、ホームの納涼祭では、近隣の人々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に関する相談は随時行っている。散歩に出た際、高齢の方にそれとなくお話を伺い、「何時でもお立ち寄り下さい」と声をかけている。運営推進会議を通じ、区長や民生委員の方々や勉強会を行ったり、ホームでの事をお話している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、私どもグループホームの行事など毎月の出来事を把握して頂いたり、広く地域の方たちと交流をはかれるような議題提案をさせて頂いている。会議で出席頂いた方たちのご意見・アドバイスなども、次回までに改善したり、変更したりと取り入れさせて頂いている。	会議は定期的に開催され、運営状況や評価等の報告を行い、議題提案をして話し合いを行っている。意見等はサービス向上に活かしている。出席していない家族には議事録を渡している。3月の開催時、市の担当者は出席していない。	運営推進会議は、事業所の考え方、運営や現場の実情等を伝える貴重な機会である。市の担当者が出席できない場合であっても、代わりの者が出席できる体制づくりに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの際、必ず市職員の方にも出席頂き、アドバイスやご意見を伺っている。積極的にお話させて頂き、これまでに何度か改善・取り入れなどをさせて頂いている。	市のオレンジボランティアの実習生を受け入れている。利用者の状況報告や申請代行等で市の窓口へ出向いたり、相談や意見をもらう等、市の担当者と連携を図りながらサービス向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場研修で身体拘束についての学習会を行い、具体的にどのような行為が拘束の対象となるのかを職員全員で学習し、身体拘束”0”を目指し、それに努めている。	身体拘束についての法人内研修を行い、職員の共有認識を図っている。基本的には日中、玄関の施錠をしていないが、職員が少ない場合には施錠をしている。利用者が外出しそうな時は、職員が後から付き添う等、安全面に配慮している。	利用者一人ひとりのその日の気分や状態像を把握し、職員の連携で見守りの方法を徹底しながら、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていってほしい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する職場研修を行っている。また、虐待発見時の通報義務についても、福祉に携わる者として常に心掛けるなど、確認している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度と日常生活自立支援事業について、職場研修している。資料作成し、全員に配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より、十分な説明をさせて頂いている。入居後も、随時話し合い等を行い、解約時段階を経て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会などで、ご家族様などからご意見・ご感想を伺い、記録し、改善・変更出来る点はすぐに反映している。また、時間のかかる事案に対しても継続し検討している。	利用者の要望等は日常の会話の中から汲みとるようにしている。運営推進会議や来訪時に家族等から意見等を聞くように努めている。出された意見等は職員間で検討し、速やかに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職場会議や日々の業務の中で、一人ひとりの職員から、意見や提案を聞く機会を設けるように心掛けている。改善すべき点は改善し、相互理解できるように努力している。	職場会議や日々の業務の中で、一人ひとりの職員から意見や提案等を聞く機会を設けている。出された意見や気づきを運営に反映させている。職員と個別面談をすることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が提案や意見を言いやすい雰囲気である。毎月1回の職場会議にも参加してコミュニケーションをはかっている。環境改善の提案も聞き入れて改善整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部会議の出席や研修会等の参加推進を働きかけている。新入職員に対しても、マンツーマンのOJT体制で丁寧に指導を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会へ加入し、管理者や職員が、同業者と交流する場へ参加が出来るよう働きかけている。近隣事業所同士でも交流が持てるよう働きかけている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を頂いた後、必ず、ご本人との面接を実施している。その際なるべくご自宅へうかがい、ご本人の生活環境なども見せて頂き、理解を深められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービス利用状況等、経緯について、ゆっくりとお話を伺っている。お話を伺いながら、関係を築いていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況などを確認し、何がこの方にとって必要であるかを見極め、可能な限り柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、長く生きてこられた人生の大先輩であるという事を常に心に留め、昔の風習や、お料理の味付けなど教えて頂き、又、料理のお手伝いや洗濯物干しやたたむなど出来る事は、やって頂き共に協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にいつでも来て頂ける体制にしてあり、その際にはご家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、又、行事参加を毎回呼びかけ、ご家族と職員、利用者様と関係を深められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	門戸を広げ、ご家族やご友人がいつでも来て頂けるように、開放的な雰囲気、友好的な雰囲気づくりをしている。又、来て頂いた方々との記念写真を撮ったりしている。	家族・友人・知人等の来訪時には、いつでも来てもらえるよう友好的な雰囲気づくりに留意している。家族等と一緒に外食や買物、帰宅することもある。毎日、夫と携帯電話で話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり、全員集まる時間に共通の話題のお話をしたり、なかなかお話の出来ない方に寄り添い話しかけながら、穏やかに生活できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方とも、折りにふれ、近況伺いの電話をさせて頂いたりし、継続的にお付き合いが出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けをしたりして、意向の把握に努めている。その他ご家族からも話を伺ったり、情報を頂いている。	日々の関わりの中で、声掛け等の工夫をして、本人の言葉や表情、仕草等から思いや意向を汲みとるように努めている。家族等からも情報を得て、職員間で共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から伺ったり、ご家族・ご友人などの面会の際にも、少しずつ伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スペースに合わせ、その中で出来る事に注目し、その方の全体の把握に努めている。又、利用者の訴えには耳を傾け、心身状態が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活していただけるよう、ご本人・ご家族のご要望、医師等の意見を含め、普段の生活記録や様子など総合的に反映し、介護計画を作成している。	本人・家族等の思いや要望等を聞き、主治医等の意見を含めて職員間で話し合い、介護計画を作成している。月に1度モニタリングを行い、更新時に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	本人・家族等の要望や状況の変化が無いようでも、月に1度のモニタリングを基に、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、連絡ノートなどで、個人個人の状態変化等記録し、情報を共有している。職場会議やモニタリング時、職員同士で話し合い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・ご本人の状況に合わせた、柔軟で多様化したサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や近隣施設への働きかけや、ボランティアの方達の協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受診記録を作成し、全職員が情報を共有している。また、主治医に月2回往診に来て頂き、利用者様、職員ともコミュニケーションもはかり、関係を築いている。	入居時に、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医となっている。月2回協力医が訪問診療をしている。家族同行の受診・通院が不可能な場合は職員が代行し、受診結果を報告している。訪問歯科支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員を中心に、毎日の体調把握に努め、記録し、小さな変化にも対応できる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ケアマネ、相談員などが情報提供を行い、ご家族を含め、三者一体となり、入院ダメージ軽減に努めている。また、入院中も、医師と話をする機会を持ち、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針の相談を行い、「意思確認書」を作成して頂いている。また、担当医師とも出来る限り相談し、ご本人の望まれる方針と事業所でできる事の確認を行っている。	入居時、「終末期の対応に関する意思の確認について」本人・家族等と話し合い、「意思確認書」を作成している。段階に応じて家族等と話し合いを持ち、随時意向を確認しながら、主治医及び関係者全員で方針を共有して支援に取り組んでいる。1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、研修を行っている。救急車要請の具体的レベルを掲示し、緊急時落ち着いて対応できるように日常的に意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時マニュアル、災害時マニュアルを作成し、常に非常時をシュミレーションしながら、日常業務を行っている。また、近隣他施設との連携も依頼し、関係を築いている。	23年2月、昼間想定 of 自主訓練で避難誘導訓練・通報訓練を実施している。23年5月、消防署立会いの下、夜間想定 of 総合防災訓練を行い、区長・民生委員・家族等も参加している。	利用者や職員等が確実な避難方法を身に付けられるように、避難誘導訓練の増加に期待したい。災害に備えて飲料水・食料・備蓄品の準備も進めていってほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった対応を心掛けている。尊敬の気持ちを持ち、言葉かけ、呼び方など配慮している。	一人ひとりに対して尊敬の気持ちを持ち、その人に合わせた呼称、言葉かけや対応を心がけている。排泄介助の言葉かけや対応については注意を払っている。管理者が指導したり、職場会議で話し合いを行っている、		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりにあった声かけを心掛けている。返事の遅い方、出来ない方にも、表情を読み取るなど、ご本人の自己決定をゆっくり待つように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、その方のペースが最優先で、その方の気持ちに沿った支援を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、散髪をしたり、職員と買物に行き、一緒に洋服やアクセサリーを選んだりしている。外出する際は、個々に好みの服を着て頂き、楽しい気分で行けるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みのものをリクエストして頂いたり、メニューに反映している。テーブル拭き、食器片付け等出来る方には手伝って頂いている。又、利用者の方といなり寿司や手作りおやつなどを一緒に作ったりしている。又、おやつ時間は、職員も一緒にお茶をし、会話を楽しんでいる。	テーブル拭き・後片付け・おやつ作り等も利用者と共に行っている。利用者の好みを取り入れ献立を作成している。職員はサポートを行い、利用者と一緒に同じものを食べていない。外食やバーベキューを楽しんでいる。	事業所の特性を踏まえて、利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを検討して欲しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量など毎日記録している。特に夏場は、夜間の水分補給など配慮している。また、入浴後にはポカリスエットを必ず飲んで頂き、脱水予防している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。ご自分で磨いて頂いた後、職員も確認するように心掛けている。自分で磨けない方は、職員が手伝いながら磨いている。定期的な歯科医の往診でご指導頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄や飲水記録を付け、パターンを把握するよう心掛けている。把握により、声かけのタイミングをつかみ、トイレで排泄して頂けるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、その人に合わせた誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁時の対応については、羞恥心や不安感が残らないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューに配慮している。牛乳、ヨーグルトやバナナ、食物繊維を多く摂るようにしている。毎日1時間程度、軽く身体を動かしたり、散歩したり、運動し、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯など工夫している。入浴を拒否される方に対しては、声掛けを工夫したり、時間を変えて入浴して頂いている。又、失禁時はシャワー浴している。	毎日入浴できる体制をとっている。言葉かけをして、本人の希望に合わせて3名位が入浴をしている。入浴拒否の場合には、言葉かけの工夫や時間の変更等で対応している。菖蒲湯・ゆず湯等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転している方には、日中の活動量を増やしたりしている。又、なかなか寝付けない方には、職員と一緒に付き添い、廊下歩行したり、テレビを見たり、ご本人に合わせて休息して頂けるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご自分で口に入れられる方には手渡し、服用確認している。その方に合った服用方法を心掛けている。また、服薬情報を職員全員がすぐ確認できるよう掲示したり、把握できるよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみ(編物や書道等)を見つけて頂き、好きなこと、得意なことの把握をし、張り合いや喜びのある時間をすごして頂けるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物など、戸外へ出かけられるよう支援している。又、何処へ行きたいか、どんな事がしたいかなど希望を聞き、買い物や外食、梨狩りなどを実行している。又、ご家族の参加を呼びかけ、一緒に出かけられるよう協力して頂いている。	希望に沿って、ウッドデッキでの日向ぼっこ、中庭やホーム周辺への散歩、買物・ドライブ・季節毎の花見・梨狩り・バーベキュー・外食等に出かけている。家族等の協力を得ながら、戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買物に行き、職員が見守りながらご自分で支払いをして頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、かけてお話しして頂いています。又、携帯電話で時間帯を決めご家族とゆっくりお話できるようにしたり、手紙やハガキもやり取り出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール外のデッキに洗濯物を干し、生活観を感じて頂いている。キッチンも対面式で料理の匂いなどを感じ、ダイニングテーブルには、庭で摘んだ花などをか食事時には、テレビを消し、BGMをかけている。	室内は明るく清潔が保持されている。ホールにはテレビ・テーブル・椅子・大きなソファ・金魚の水槽等が設置されている。広い廊下の壁に行事の写真が飾られ、歩行訓練等も行っている。中庭に花壇・菜園もあり、家庭的な環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にスペースを分けたり、イスやソファを置いて、思い思いに座って頂いている。食事テーブルも、仲の良い方同士を隣にするなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや色紙を壁に貼ったり、入居時の説明でなじみのある物を持ってきて頂けるようお願いしている。タンスの整理なども一緒に行ったりしている。	各居室には、整理筆筒・テレビ・ソファ・クッション・縫いぐるみ・仏壇・家族の写真・カレンダー等、思い出の品や好みのものが持ち込まれ、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外出時、座って靴を履けるように玄関にイスを置いたり、ご自分の部屋が分かるように、大きな文字の名前と、ご本人の写真を掲示している。以来、居室を間違えなくなり、ご自分で靴を履く事が出来たり、ご自分で居室とホールを往復できている。		